

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 物語の登場人物になりきって日記を書こう 『ごんぎつね』

2 単元について

児童の実態（略）

本単元は、「読むこと」と「書くこと」の力をつけることをねらいとしている。

- | |
|--|
| <p>○目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。 （C読むこと）</p> <p>○相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら書こうとする態度を育てる。 （B書くこと）</p> |
|--|

これらの力の育成をめざし、指導事項のC読むことウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」B書くことウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」を中心に学習する。教材文『ごんぎつね』は、中心人物として、ひとりぼっちの小ぎつねのごんと、母の死によりごんと同じくひとりぼっちになった兵十が登場する物語である。本教材は、「わたし」が語り手となり、伝承風に書かれている。児童は一人の読み手として、段落相互の関係に注意して、ごんの視点に立ったり、兵十の視点に立ったりしながら、登場人物の心情や心の揺れ動き、場面の移り変わりを考えながら読むことができる。また、独言や心内語などを用いて登場人物の心情が描かれ、美しい情景描写が織り込まれているなど、いきいきとした表現によって、児童は想像力豊かに読み進めていくことができる。物語の最後に、ごんが兵十に撃たれてしまうという悲劇が起こったことに関して、児童の多様な考えを引き出すことができる教材である。教材文の読み方を生かし、自分が興味を持った物語の登場人物になりきって日記を書くという言語活動を設定した。単元を通して、人物の行動や会話をもとに人物の気持ちを想像しながら読み、表現することをめざしたい。

指導にあたっては、単元の学習に入る前に、関連図書コーナーを設置したり、読み聞かせを行ったりして、新美南吉の作品を中心とした物語に親しませ、興味や関心を高めるようにしたい。第一次では、司書教諭が新美南吉や他の作者の作品を取り上げたブックトークを行い、本単元の言語活動や教材文への興味を高める。また、授業者が事前に作成した「なりきり日記」と物語を紹介し、登場人物になりきって気持ちを日記として書くことが、その人物の気持ちを深く読むことにつながることを伝え、見通しを持って教材文や関連図書を読めるようにしたい。第二次では、ごんや兵十の気持ちに寄り添いながら叙述に即して読み、自分の考えの根拠となる言葉や理由を明らかにしていく。そのために、登場人物

の気持ち、根拠となる表現、既習による知識や生活経験に裏付けされた理由を考えて書く活動を取り入れる。そして、それを友達と交流することにより、それぞれの考え方には違いがあることにも気づかせたい。ペアやグループ、全体での伝え合いを活性化させるために、話し合いを深めるための語彙を提示し、対話や発言の場面で活用させたい。また、場面ごとの読み取りの後で、ごんの気持ちを綴った「なりきり日記」をワークシートに書かせることで、自分が感じたごんの気持ちを率直に表現させたい。この日記を、次時の導入として活用することで、前時の学習を想起させることで段落相互の関係などに注意させ、場面のつながりを確認したい。第三次では、自分が選んだ物語について、主な登場人物とあらすじを紹介する文を書き、取り上げたい人物の気持ちを日記の形式でまとめる学習を展開する。第二次の学習を生かして、人物の行動や会話を手がかりにして、その人物になりきって楽しんで表現させたい。児童が書いた日記を冊子としてまとめ、図書館に置いて多くの人に読んでもらうことを伝える。選んだ物語と日記を友達に紹介した後、お互いの日記がよりよいものとなるように意見交換を行うことで、考えを交流することのよさも感じさせたい。

単元全体を通じて、自分が興味を持った登場人物になりきって日記を書くという言語活動を設定し、書いた内容を適宜活用していくことで、育成をめざす資質・能力を効果的に身につけさせることができるように工夫されています。また、成果物を最終的に図書館に展示することで、学習活動の必然性が生まれ、主体的な学びにもつながっていきます。

3 単元目標

- 物語を読んで、中心となる人物とほかの人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことができる。 (読むこと)
- 中心となる人物の行動や会話をもとに、段落相互の関係に気をつけて、気持ちの変化について、想像したことを書くことができる。 (書くこと)

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。	○人物の行動や会話をもとに、気持ちを想像して日記を書いている。 (ウ)	○叙述をもとに中心となる人物の気持ちの変化を読んでいる。 (ウ) ○物語を読んで感じたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。 (オ)	○表現したり理解したりするために必要な語彙を増やしている。 イ (オ)

5 単元の指導計画 全12時間

次	時	学習活動 □主な発問	評価規準
事前	学習	・教材文の読み込みと言葉の意味調べをする。	

一 (2)	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「なりきり日記」を書くための学習計画を立て、見通しを持つ。 ・人物の気持ちの変化が分かるように書かれた本のブックトークを聞く。 ・授業者が作成した「なりきり日記」と学習計画表を提示し、単元の学習の見通しを持つ。 ・「言葉の力」を提示し、つけたい力を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりきり日記」を書くことに関心を持ち、自分が読みたい本を選んで読もうとしている。(関・意・態) 【観察】 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <p>10の視点① 成果物を具体的に提示することで、子どもたちは単元全体のゴールイメージを持つことができます。また、授業者自身が作成することで指導過程のポイントとなる部分を実感することができます。</p> </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文を通読し、大まかな内容をとらえ、学習課題を設定する。 ・題名と挿絵から分かることを話し合う。 ・教材文を読み、学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。 ・新出漢字の練習と言葉の意味を確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文に興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化をとらえようとしている。(関・意・態) 【発言・ノート】
二 (6)	3	<ul style="list-style-type: none"> ○第一場面前半を読み、物語の設定をつかむ。 □「ごんぎつね」は、どんなきつねなのだろう。 ・物語の「時」「場所」「人物」が分かる部分を抜き出す。 ・ごんがどんなきつねか、また、どんなことをしているかが分かる部分に線を引く。 ・ごんのいたずらの様子をもとにして、「なりきり日記①」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述をもとにごんの境遇や行動を読んでいる。(読むこと ウ) 【発言・ノート・ワークシート】 ・友達の考えを聞き、自分の考えと比べ、違いに気づいている。(読むこと オ) 【発言・ノート】 ・動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。(言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○第一場面後半を読み、ごんと兵十の気持ちを考える。 □兵十にいたずらをしたごんは、どんな気持ちだろう。 ・ごんは兵十にどんないたずらをしたかを読み取り、その時の気持ちを考える。 ・ごんに対する兵十の気持ちを考える。 ・いたずらをしたごんの気持ちを「なりきり日記②」として書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんと兵十の関わりをとらえ、ごんと兵十の気持ちを想像しながら読んでいる。(読むこと ウ) 【発言・ノート・ワークシート】 ・動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。(言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】

	<p>5 ○第二場面を読み、いたづらを後悔しているごんの気持ちを考える。</p> <p><input type="checkbox"/>ごんは、なぜ、「あんないたづらをしなけりゃよかった」と考えているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葬式を見ているごんの行動や気持ちを読む。 ・葬式の夜にごんが考えたことをもとにして、「なりきり日記③」を書く。 ・ごんの気持ちの変化を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんの行動や心内語に着目し、いたづらを後悔していることを読んでいる。 (読むこと ウ) 【発言・ノート・ワークシート】 ・動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。 (言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】
	<p>6 ○第三場面を読み、つぐないをするごんの行動と、兵十への気持ちの変化をとらえる。</p> <p><input type="checkbox"/>兵十に対してつぐないをするごんは、どんな気持ちなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵十に対するごんの行動をまとめる。 ・兵十に対するごんの変化を考えると。 ・つぐないをするごんの変化を想像し、「なりきり日記④」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つぐないをするごんの行動に着目し、兵十への気持ちの変化を読んでいる。 (読むこと ウ) 【発言・ノート・ワークシート】 ・動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。 (言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】
	<p>7 ○第四・五場面を読み、兵十と加助の後をつけるごんの変化を考えると。</p> <p><input type="checkbox"/>兵十と加助の後をつけるごんは、どんな気持ちなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんの様子や行動から、気持ちを想像する。 ・くりや松たけが届くことを兵十はどう思っているのかを確かめる。 ・「引き合わないなあ」という言葉をもとにして、「なりきり日記⑤」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんの変化や会話に着目し、ごんの変化と不満を読んでいる。 (読むこと ウ) 【発言・ノート・ワークシート】 ・動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。 (言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】
<p>本時</p>	<p>8 ○第六場面を読み、ごんに問いかけた兵十の気持ちとうなずいたごんの変化を考えると。</p> <p><input type="checkbox"/>ごんに問いかけた兵十とうなずいたごんは、どんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんと兵十の行動や気持ちが変わる叙述を見つける。 ・ごんに対する兵十の変化を考えると。 ・兵十の言葉にうなずいた時のごんの変化を考えると「なりきり日記⑥」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵十の行動や気持ちを表す言葉に着目し、気持ちを想像しながら読んでいる。 (読むこと ウ) 【発言・ノート・ワークシート】 ・友達の考えを聞き、自分の考えと比べ、違いに気づいている。 (読むこと オ) 【発言・ノート】 ・動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。 (言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】

三 (4)	9	○自分が取り上げた物語について、「なりきり日記」 ・ 書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なぜか」と「その理由は」「例えば」などの言葉を使って、理由や事例を挙げながら、人物の気持ちを書いている。 (書くこと ウ) 【ノート・作品】 ・ 物の名前、動き、様子などを表す言葉に着目して、表現している。 (言語 イ(オ)) 【発言・作品】
	10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『ごんぎつね』の「なりきり日記」を参考に、自分が取り上げた物語のあらすじと読み取った人物の気持ちを日記の形式で主観的に書きまとめる。 ・ 書いたものを推敲し、よりよい文章にする。 	
	12	○単元のまとめをする。 ・ 単元の学習を振り返り、身につけた力や活用する場面を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となる人物の気持ちの変化を考えることよき気づき、具体的な活用場面を想起しようとしている。 (関・意・態) 【発言・ノート】

6 本時について

(1) 本時の目標

○ごんを撃った後の兵十の気持ちを読み取ることを通して、兵十の問いかけにうなずいたごんの気持ちを想像し、ごんの立場で「なりきり日記」を書くことができる。

(2) 準備

学習計画 電子黒板 ワークシート (なりきり日記)

(3) 学習過程

◆つながり合う力を育成するための言語活動の工夫

学 習 活 動	支 援 及 び 留 意 点 ※ 評 価
1 本時のめあてを確認する。	1 児童が前時に書いた日記を紹介し、前時の場面を想起させ、前時までのごんの気持ちを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ごんに問いかけた兵十とうなずいたごんの気持ちを考え、ごん日記を書こう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【改善】 叙述と考えたことを整理して板書することで、同じ叙述に着目していても多様な読みがあることに気付かせるようにしています。 </div>
2 6場面を読み、叙述に即して兵十やごんの気持ちを考える。 ○「引き合わない」と思った次の日も、ごんが兵十の家に行った理由を考える。 ○兵十のごんに対する気持ちの変化について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ごんに問いかけた兵十は、どんな気持ちだったのだろう。 </div>	2 学習場面を音読し、ごんの気持ちが分かる描写と兵十の気持ちが分かる描写を黒板に整理し、それぞれの気持ちの変化をとらえやすくする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「引き合わない」と思ったにもかかわらず、次の日も兵十の家に出かけた理由を考えさせることで、償いに対するごんの強い思いや悲劇的な結末へ向かっていることを感じさせたい。 ・ 兵十の「ようし」「おや」「ごん、おまえだったのか」などの言動を手がかりにして、気持ちを短くまとめ、理由を書き加えるように指示する。

<p>〈一人学び〉</p> <p>ア：うってしまっごめん。</p> <p>イ：ごんがくりを持ってきてくれていたなんて思わなかった。</p> <p>ウ：取り返しのつかないことをしてしまった。</p> <p>エ：心が空っぽになって何も考えられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書き始めることができない児童に対しては、気持ちを表す言葉を提示し、自分の考えと近いものを選ばせる。
<p>〈ペア学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの考えは似ているが、理由が違っている。 お互いの考えが違っているので理由を聞いて納得できるかどうか考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア学習では、書いたことを共有し、考えの根拠を説明し、相手が理解しているかどうかを確かめるよう指示する。 自分が書いたことを紹介するだけでなく、ペアで話し合ったことや迷っていること、友達の考えを聞いて思いついたことなどを発表するように指示する。 <p>10の視点⑥ ペア学習での留意点を確認するとともに、その留意点を生かした全体学習を仕組むことで、各活動での学びがつながり、考えを広げたり深めたりすることができます。</p> <p>◆ペア学習では、「共通点と相違点を整理する」「お互いの考えの根拠を理解できたか」という2点について意識させるとともに、それらを全体場でペア学習の過程として紹介させるようにする。</p>
<p>〈全体学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵十はごんをうった後、後悔していることが分かった。 ごんがくりを持ってきてくれていたなんて兵十には想像できなかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体学習では、6場面の途中から物語の視点が兵十になっていること、ごんに対する呼び方が変化していること、火なわじゅうをばたりと取り落としたことなどを押さえ、兵十の気持ちが大きく変化したところとその理由について話し合うことで、兵十の心情を深く読み取らせたい。 最後の一文の効果について、「青いけむり」「細く」という言葉の考察を通して、作者の意図を考えさせたい。 <p>※兵十の行動や気持ちを表す言葉に着目し、兵十の気持ちを想像しながら読んでいる。（読むこと ウ）【発言・ノート】</p>

3 兵十の問いかけにうなずいたごんの気持ちを考え、ごんの気持ちを想像しながら「なりきり日記⑥」を書く。

ア：今までごめん。許してほしい。
イ：気づいてくれてよかった。
ウ：仲よくなれたら。
エ：兵十は幸せになってほしい。

4 まとめの音読と学習の振り返りをする。

- ・ごんが撃たれたのは悲しいことだけれど、命と引きかえに兵十に分かってもらえてうれしい気持ちもあったことが分かった。
- ・友達と話し合っ、最後にごんはひとりぼっちではなくなったのが分かったのがよかった。

3 板書、ノート、教科書の叙述を参考にして、前時までの学習を想起させながら、ごんになりきってこの場面の気持ちをワークシートに書かせたい。

- ・くりを持ってきた理由よりも撃たれた後の兵十への気持ちを中心に書くように指示する。
- ・書き始めることができない児童に対しては、書き出しの言葉を提示し、続きを書かせるように促す。

※動きや様子を表す言葉に着目して、理解・表現している。
(言語 イ(オ)) 【発言・ワークシート】

4 「めあてに対して分かったこと」「友達との交流で考えたこと」という視点で振り返るように指示する。

↑〈一人学び〉で考えたことと比べて変容が大きい児童を紹介し、伝え合いが高まり合いにつながることを実感させる。

10の視点⑧
振り返りの視点（「本時で分かったこと」「どういう学びの過程でそれが分かったか」等）を明確にすることで、自己の学びを客観的に振り返ることができ、子どもたちは達成感を味わうことができます。